

本件発明「合成樹脂製窓材」に関して、 特許無効審判請求は成り立たない旨の審決が支持された。		無効審判 記載不備 進歩性
事件番号 (裁判所)	平21 (行ケ) 第10440号 (知財高裁第4)	
判決言渡日 (判決)	平22・8・9 (棄却)	
原告	YKK AP株式会社	
被告	株式会社トクヤマ	
出願番号等	特許第3420527号	
関係条文：法第36条6項2号、 法第29条第2項	担当： 前田均	

事件の経緯 被告は、「合成樹脂製窓材」に関する特許権者であり、原告の無効審判請求に対し、訂正請求を行い、明細書を訂正し、訂正が認められ、本件審判請求は成り立たないとの審決があり、原告は、それを不服として審決取消訴訟を提起した。

原告の主張 原告は、審決には、本件明細書の記載についての判断の誤り（取消事由1）と、相違点2および3についての判断の誤り（取消事由2）があるとして、審決の取り消しを求めた。

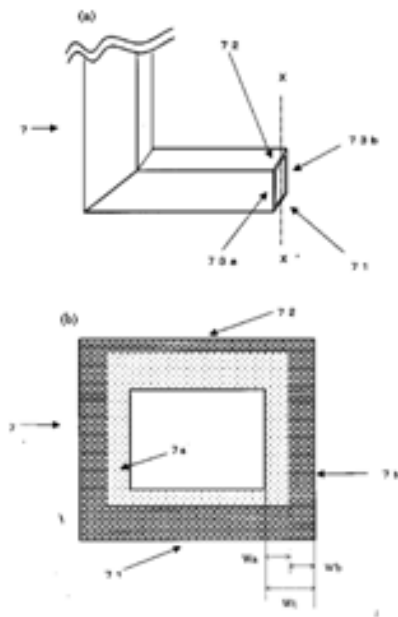
取消事由1では、原告は、「本件発明において、バリ取りの際に内層が見えるのを回避するといふ課題が、単に内層と外層の樹脂層の厚みの比のみを規定するだけで達成できるとして「記載不備である旨を主張するたため、原告は、審判段階では提出しなかつた実験データを甲17号証として提出した。

取消事由2では、原告は、「本件発明は、3つの構成層の内、[少なくとも1つ]が所定の比を置き、構成層の位置により膜厚比を異ならしめたことを構成要件としていないのに対して、審決では、[構成層の位置に応じて層厚比を調整すること]を本件発明の特徴として判断した誤りがある」旨を主張した。

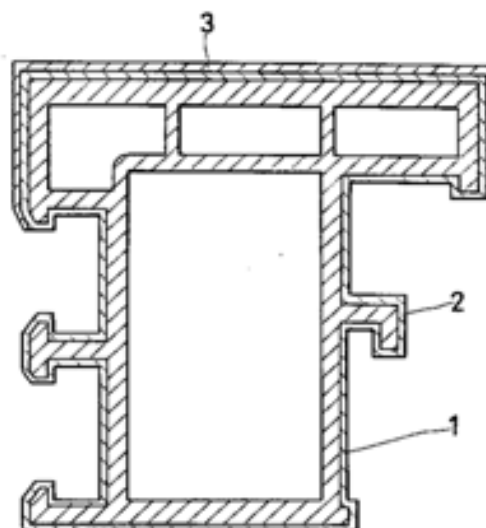
判決 判決では、取消事由1に関して、本件明細書の記載に基づき、本件発明の課題を明らかにし、「少なくとも1つ」との文言を使用しつつ、構成層の位置（甲、乙または丙）により膜厚比を

ま溶に大るびいに特題
 と。「着のできよの層を課な
 件たに溶代能でお1の比のは
 要し載、着可が囲。1つの明ろ。
 成断記も溶解と範た〜1さ発こた
 構判のてが理このし1も厚件とめ
 のと囲し者もる求断例との本る認
 明い範と業に得請判知く分うすを
 発なのい当的を、と周な部い慮性
 件は求な「術果てい「少層と顧歩
 本り請い、技効しな、の外]て進
 を誤許てばはうとはは丙るるいの
 とに特しれと言」備て、すすつ明
 こ断る載よこにる不し乙対定に発
 た判係記にる明あ載関、に設想件
 しのにが術す発で記に甲さに思本
 と決明件技慮件能、2「厚囲的、
 の審発条知配本可は由、全範術て
 もる件の周宜、施に事も、値技し
 るい本」る適て実書消にて数はと積
 なた、代すをっ、細取れいのた」評
 異した着関小あし明ずつ定まい
 少なで能は、を一甲は、一
 「に階に可は、明のたりでの
 、つ段証るで発因しよの因
 て一判号れ決許原出うた原
 いの審2さ判特の提言得の
 お点、第定、件訴がとり訴
 に争ば甲否ら本勝。告るな勝
 囲、れびをが、告る原けも告る
 範がすよ性なて被えで助に被え
 の積視お歩しし、考階を抛も考
 求解無証進か慮もと段張証点と
 請のを号のし考点かの主るのか
 許言題1明。ものい訟のけこい
 特文課第発る題そな訴告付。な
 ののの甲許え課。は消原裏るは
 明」明た特考のたで取、をえで
 発つ発し件と明れの決は張考の
 許1件出本た発くた審証主とた
 特も本提、っ許てっ、号のかつ
 件と。がきあ特しなた7側いな
 本くた告づも件握にま1告なに
 なっ原基性本把つ第被はつ

本件特許の図面

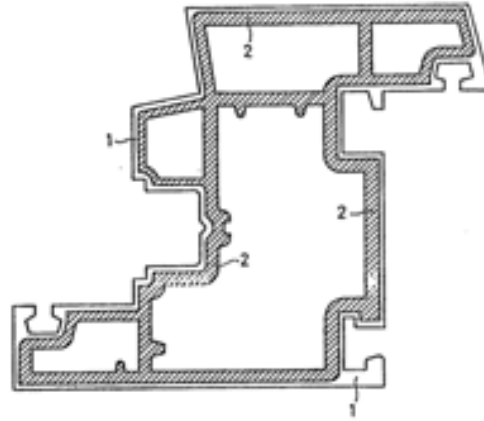


甲第1号証 樹脂製窓枠で二層構造樹脂異なる



甲第2号証 二層構造の樹脂製窓枠 内層はリサイクル樹脂

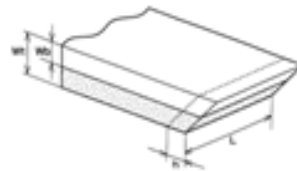
Es werden Fenster- und/oder Türprofile aus im Extrusionsverfahren verarbeitbarem Kunststoffmaterial auf der Basis von mit Gleitmitteln, Füllstoffen, Pigmenten und insbesondere Stabilisatoren vermishtem Polyvinylchlorid beschrieben, deren Profillinienbereiche (2) aus einem weniger stabilen Kunststoffmaterial bestehen, das in seinen mechanischen Eigenschaften dem für die Profilaußenbereiche (1) vorgesehenen, stabilen Kunststoffmaterial ähnlicher oder gleicher Zusammensetzung angepaßt worden ist.



DE 36 16 444 A 1

被告側審判口頭要領陳述書添付図面

【参考図1】

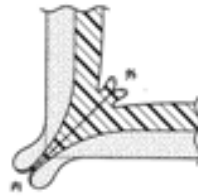


【参考図2】

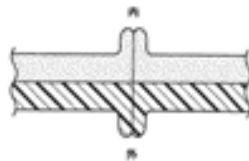
図面記号	断面形状	寸法関係
		$W = 2C11 - W_{out} + W_{in} + W_{cham} + a$
		$W = 2C11 - W_{out} + W_{in} + W_{cham} + a$
		$W = 2C11 - W_{out} + W_{in} + W_{cham} + a$
		$W = 2C11 - W_{out} + W_{in} + W_{cham} + a$
W_{out} : 外寸の幅 W_{in} : 内寸の幅 a : 肉付の幅 $a = W_{cham} / \sin(\theta)$		$W = 2C11 - W_{out} + W_{in} + W_{cham} + a$

被告側審判口頭要領陳述書 添付図面

【参考図1】
【参考図1】



【参考図2】
【参考図2】



甲第17号証の図面

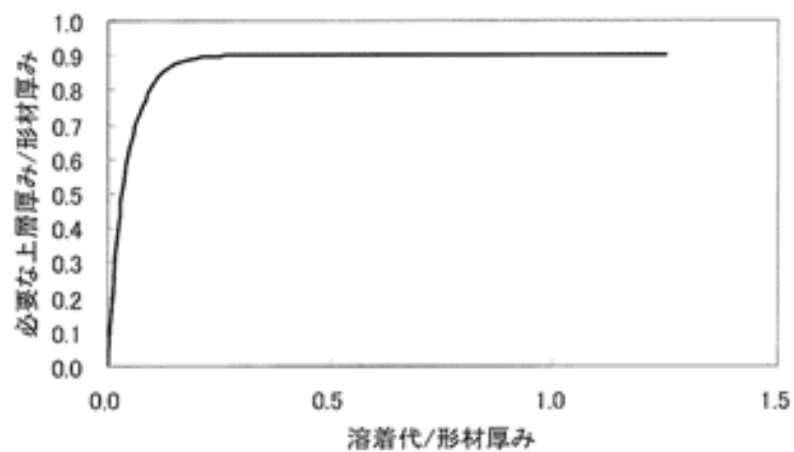


図 17 出隅部の溶着代と必要な上層の厚み

甲第17号証の図面

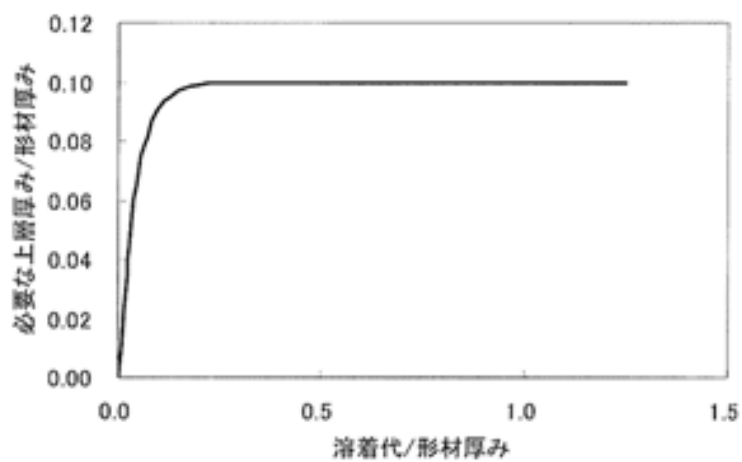


図 18 入り隅部の溶着代と必要な上層の厚み